

サンフランシスコの「慰安婦」像の暴力的撤去を求める吉村大阪市長に、 市長の資格はありません！

4月28日、吉村洋文大阪市長はツイッターに、このように掲載しました。

慰安婦像撤去。昨年建てられたマニラの慰安婦像が重機で撤去された。サンフランシスコ市の慰安婦像も重機で撤去してもらいたい。日本の外務省には国民の税で莫大な予算がついてるんだから同盟国アメリカの一自治体に設置された慰安婦像の撤去に努めて欲しい。

これには、像を掘った後に残った大きな穴の荒々しい写真まで添えられていました。

この文を読み、写真を見た私たちは、自分の身体が傷つけられたような大きな痛みを禁じ得ません。

2015年から市民と市によって建設が始まったサンフランシスコ（以下、SF）市の「慰安婦」記念碑と像に対して、大阪市長は継続して妨害行為を行ってきました。『慰安婦』制度が必要なのはただだってわかる」「河野談話は最悪」等と発言して大きな非難を浴びた橋下徹前大阪市長は、SF市訪問を拒絶され、わい曲した歴史等を書いた書簡をリーSF市長（当時）に3回送っています。それを引き継いだ吉村市長も、昨年2月から11月の間に5回、リー市長に「日韓合意の精神を傷つける」「慰安婦の数・日本軍の関与の度合い・被害の規模について、碑文は日本批判」等と書いた書簡を送りました。とりわけ、3回目以降は「姉妹都市関係を根本から見直す」と、脅しとともれるようなことを書いています。リー市長からは、「記念碑で犠牲者に敬意を払い、世界で止むことがない人身取引や子どもの商業的性的搾取問題を啓発することが今回の市民の目的であり、その意図は善意である」と、「慰安婦」記念碑や像の建設について理解を求める返信が来ましたが、吉村市長は何がなんでも建設阻止と、執拗な圧力をかけ続けたことは、私たちの記憶にも新しいところです。

SF市では昨年11月、日本からの圧力にも屈せず、予定通り市有地に「慰安婦」記念碑と像が建ち、静かに性暴力反対を訴えています。多くの市民が姉妹都市関係の解消に反対する声をあげ、私たちも何度も、「恥ずべき行為だ」「歴史認識を改めて、女性の人権を守ることを求める」と吉村市長に抗議しました。大阪市議会も大阪維新の会が提案した「姉妹都市提携の解消を求める決議案」を二度にわたって否決しました。しかし、吉村市長はこれらの声をすべて無視し、建設完了直後に亡くなったリー市長の後任が2018年6月に決まったら姉妹都市関係の解消を申し入れると、昨年12月に決定しています。

吉村市長！ これは大阪市民とSF市民に対する暴挙です！

そして、その挙句が、吉村市長のこのツイッターです。この無残で、暴力的なマニラでの撤去を引き合いに出して、「次はSF市の『慰安婦』記念碑と像の撤去だ」と言わんばかりに、日本政府に圧力をかけています。

マニラのこの日本軍「慰安婦」被害者像には、「1942～45年の日本統治下で虐待の被害に遭った全てのフィリピン女性の記憶である。彼女たちが自身の経験を語り出すまで、何年もの月日を要した」と記されていました。「慰安婦」被害者たちの尊厳回復を求め、「再びこのようなことが起きないように」という願いを込めて、現在も続く性暴力の根絶を訴えるために、フィリピンの人々は昨年12月、歴史的な記念物の設置に関わる政府機関「フィリピン国家歴史委員会」の承認を得て、像を建てました。それにも関わらず、日本政府は設置直後から「遺憾だ」「二国間の関係に悪影響を与えないように」等と、経済力に物言わせて、フィリピン政府に圧力をかけ続けてきたのです。あまりに恥ずべき態度です！

大阪市長や日本政府が世界の各地に建つ日本軍「慰安婦」像の撤去を求めることは、「慰安婦」被害者を再び貶める行為です。それを許さず、『慰安婦』被害を記憶に留め、今なお続く性暴力をなくしたい」と願う多くの市民が世界の各地で像を建てているのです。私たちはその人々とともに進みます！

私たちは、吉村市長にも、日本政府にも抗議します！

女性の人権を尊重せよ！

歪曲した歴史認識を改め、歴史的事実を直視せよ！

国際社会の声を無視するな！

私たちは、世界の仲間たちと連帯して、「#Me Too」「#We Too」「#With You」の声をあげ続けます！

2018年5月16日

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク